

◇先生方へー今こそ学級集団の力を活かしましょう！！ー

日本教育カウンセラー協会岩手県支部・早稲田大学現代教育実践研究所・実証心理教育研究所
からの応援メッセージ

はじめに

今回の震災は、私たちが経験したことのない深刻な出来事です。直接、間接的に被災した子どもたち、そのような子どもたちを見守る子どもたち。子どもたちは、一人ひとりがそれぞれの想いを抱いて、学級に集ってきます。子どもたちに直接かかわる先生方は、初めての経験で、不安を抱く方もあるでしょう。被災した子どもたちには、何か特別な対応をしなければならないと、焦る方もあるでしょう。それが普通です。

しかし、こういうときこそ、いつもの**満足型学級集団**づくりに、学級経営に、一步一步取り組んでいきましょう。それが結果として、すべての子どもたちを、支え、育むことにつながると思います。それが教師としての専門性を活かすことのできる、最善の方法だと思います。そしてそれこそが、先生方しかできない、取り組みだと思えます。

1. 満足型学級集団は、すべての子どもたちの生きる力を育む

満足型学級集団は、学級内に親和的な人間関係があり、子ども同士のかかわり合いや発言が積極的です。学級全体に活気があり、笑いがたえない学級です。ルールが内在化しており、その中で、子どもたちが主体的に生き生きと活動している状態です。

すべての子どもたちの居場所となり、子どもたち同士で支えあい、学びあい、生きる力を高めあっていく学級集団です。この学級集団のもつ力を、積極的に活かしましょう。

2. 学級内に、ルールとリレーションを確立する

ルール：対人関係、集団活動・生活をする際のルールが全員に理解され、学級内に定着していることが必要です。ルールが定着していることで、子どもたちの中に傷つけられないという安心感が生まれ、友人との交流も促進されるのです。

リレーション：リレーションとは互いに構えのない、ふれあいのある本音の感情交流がある状態です。学級内の対人関係の中にリレーションがあることで、子どもたち同士の間に仲間意識が生まれ、集団活動(授業、行事、特別活動など)が協力的に、活発になされるのです。

3. 定期的に実態把握して、個別対応と全体対応を統合する

学級に集まる子どもたちの人権は、みんな等しく平等です。

しかし、子どもたち一人ひとりの援助レベルは、それぞれ違うのです。子どもたち一人ひとりの援助レベルを確実に把握し、適切な個別対応をしなければなりません。

子どもたちの援助レベルに、少し敏感になりましょう。

まず、3つのレベルで、学級の子どもたちの援助レベルをおさえましょう。

1 次的援助レベルの子ども——全体活動に自ら参加できる子どもです

2 次的援助レベルの子ども——全体活動の中で個別配慮が欠かせない子どもです

3 次的援助レベルの子ども——個別の、特別な対応が必要な子どもです

◎2次、3次の援助レベルの子どもたちを、見逃さないようにしましょう！！

先手で発見に努め、子どもからゆっくり話を聴き、必要とされる援助を行いましょう！

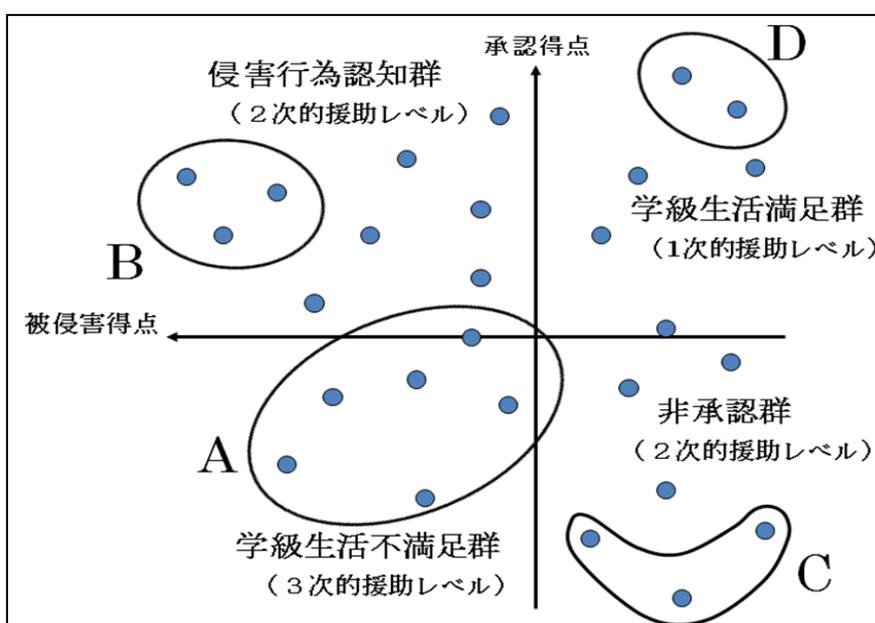


◎全体活動の取組は、学級内の子どもたちの援助レベルの実態をおさえて、無理のない水準から、ゆったりとすすめていきましょう！

子どもたち一人ひとり、学級集団の状態の把握には、日常観察や言葉がけだけでなく、心理検査などの調査法も、あわせて活用することをお勧めします。

Q-Uは、こういうときこそ、その力を発揮すると思います。

◇気になる子どもの理解と対応のポイントーQ-Uの結果から



<Dの子どもたち>

元気いっぱい生活しているように見えて、実はどこか頑張りすぎている、過剰に適應している可能性もあります。「完璧ないい子」でなくても、先生は受け入れていることを、雑談などをしながら実感させてあげてください。

<Aの子どもたち>大きい問題を抱え、落ち込んでいる可能性が高いです。早急に、個別に面接してあげてください。必要ならば、専門家につなげてあげることも求められます。

<Bの子どもたち>イライラや怒り、友だちとの軋轢などを抱えている可能性が高いです。その辛さを、まずじっくり聴きとってあげてください。そして、今後どう対応するかを先生と一緒に考えていくのです。この子どもたちには定期的に話を聴く時間をとってあげてください。

<Cの子どもたち>無気力、虚無感などを抱えている可能性があり、授業や活動に投げやりな態度が見られても、すぐに叱責せず、個別にその理由を聴いてあげてください。小さなことでも、あたりまえに取り組んでいることを、その都度、認める言葉がけをしてあげてください。

◇先生方へーマイベストでやっていきましょうー

あれもこれもやらなければと、先生自身が、Dの子どもたちのようになっていませんか？自分の生活の中で、できる範囲の中で、ベストを尽くして下さい。頑張りすぎでは、表情がなくなります。満足型学級集団の中心には、いつも笑顔の先生にいて欲しいのです。

<先生サポートの連絡先はこちらまで>

代表：河村茂雄（早稲田大学教授）メールアドレス<jaep52qu@gmail.com>

